

東腎協

東腎協 第三回総会
報告
腎友会紹介・文集
その他

第9号
75.7.20

東京都腎臓病患者 連絡協議会
事務局
東京都

電話 〇三

東腎協・第三回総会開催

東腎協・第三回総会は、四月二十日（日）午後一時より全国労音会館にて開催されました。

総会は、最初に東京女子医科大学教授の大田和夫先生の講演で始まりました。講演は、「腎不全の治療をめぐる最近の諸問題」と云うタイトルで行なわれ。腎不全対策の進歩の経過。〇これからの人工腎臓はどうなるのか、その将来と腎移植について。〇新しい型の人工腎臓などについてスライドを使用して詳しく話され、大変好評でした。

講演が終り、議長団に中島良明氏（両国クリニック）高橋勇二郎氏（西新井腎友会）を選出し議事に入りました。

その結果、昭和四十九年度活動報告、

決算報告、監査報告が拍手によって承認されました。

続いて昭和五十年年度活動方針（案）予算（案）規約改正（案）が一括提案され、満場一致採択されました。総会の詳細は次のとおりです。

総会風景



重点目標

スロークアン

- ① 腎疾患者の早期発見、早期治療の確立
- ② 腎炎、ネフローゼ等長期療業者の医療費公費負担と生活保障
- ③ 総合腎センターの設置
- ④ 三多摩格差の是正
- ⑤ 専門医療関係者の充実
- ⑥ 社会復帰対策の促進
- ⑦ 患者代表の参加した腎疾患対策委員会

石坂会長あいさつ



石坂会長

最初にこの間に不幸にして亡くなられた方への冥福を祈りたいと思います。(一分間の黙禱をささげました。)

東腎協は、昭和四十七年十一月に結成されましたから今回で三回目の総会を迎えることが出来ました。この間八〇〇名の会員をよりする組織へと発展することが出来ました。しかし、まだまだ患者さん方がたくさんおられますので、手をとり合って東腎協に加入を呼びかけていきたいと思えます。東京都に対する請願要請などによって着々と成果をあげてきていますと思えますが、まだまだ一部役員に負担がかかってしまっている点もあります。みなさんのこれからの御協力をお願いいたします。

上田全腎協会長「あいさつ」

東腎協のみなさんに地方のみなさんから伝言があります。それは国会請願、要請などの際に東腎協のみなさんに大変お骨おかりをいただき感謝しているとのことです。全腎協の活動も地方での活動が活発になってまいりました。

五月十八日には、全腎協の第五回総会が岐阜において行なわれますのでみなさんの御参加をお願いします。

現在、私達の抱えている問題はたくさんありますが、現在の年金法やその他の関係法を私達の立場に立ったものに発展させていかなければなりません。その意味では、大変いきの長い活動が必要であります。そのためにもお互いが助け合って前進をもちとるために、長生きしようではありませんか。

新役員紹介

会長 石坂一男 (虎の門病院)

八王子市

副会長 一ノ清明 (佼成病院)

中野区

(自)

事務局 次長 加藤茂 (代々木病院)
杉並区

事務局長 泉山知成 (国立王子病院)
会 計 井田弘之 (三軒茶屋病院)
北区

平沢三吾 (こぶし会)
江東区

事務局長 江東区



事務局
次長

中島良明 (両国病院)

台東区

吉田修吾 (個人会員)

世田谷区

(勳)

幹事

糸賀久夫 (厚生年金病院)

入口成子 (国立王子病院)

上野信幸 (こぶし会)

岡本晩 (虎の門病院)

高橋勇二郎 (西新井病院)

月田修次 (女子医大分院)

永井知直 (女子医大分院)

永野孟夫 (女子医大分院)

原一 (蔵本病院)

堀江紀久雄 (三軒茶屋病院)

宝生和男 (ニレ友の会)

山崎雅和 (代々木病院)

堀内達雄 (三軒茶屋病院)

田中克人 (大久保病院)

中村美枝子 (女子医大分院)

小川忠光 (虎の門病院)

顧問 小林孟史 (代々木病院)
会計監査 郷州七蔵 (三軒茶屋病院)

三浦礼子 (大久保病院)

来賓のみなさま

○大田和夫 (東京女子医科大学教授)

○大坪公子 (三軒茶屋病院)

○守屋美喜雄 (医療法人社団 一ツ橋診療所)

○中島初恵 (都立府中病院 神経内科 相談室)

○坂素行 (代々木病院)

○幸クリニツク

○森美樹 (腎臓移植普及会)

議員関係

○斉藤一雄 (都議会 社会党)

他団体関係

○肝炎の会・高橋副会長

○障都連 事務局長 市橋博

会費が二四〇〇円

になりました

東腎協の規約改正が行なわれまして昨年までの一人年間一〇〇円とする(全年

腎協会費も含む)が、会費は一人二四〇〇円とする(全腎協会費も含む)と改正になりました。

東腎協の活動を支えるためには、その財政の確立が必要です。活動が発展すればそれにつれて財政の支出も増えていきます。これまで、役員の負担によるところも多かったのですが、機関紙の充実、郵送費、諸経費の値上がりに対応するための財政です。東腎協の発展のためにもみなさまの御協力をお願いします。

祝電披露

○東京都知事・美濃部亮吉氏より

「腎疾患患者の生命とくらしを守るために尤もな努力を続けておられる東腎協の皆さまに深く敬意を表し、総会のご成功を心からお祈り致します。」

その他、○山本政弘氏(衆議院議員) ○坂口力(衆議院議員) ○野村鑑一(東京都衛生局長) ○全国スモンの会 ○聖友会(四ツ谷クリニツク)のみ さんから祝電をいただきました。

文書発言の紹介

総会に御出席できない会員のみならず
に文書発言を求めましたところ次のよう
な内容の文書発言がありましたので御紹
介します。

◆南みつ子(個人会員)

お願ひ

①パッチ考案について

透折時間は病院で指定されているため
いつも空いた電車を選ぶ訳にはいかな
い時間によってはホームのベンチさえ満員
で仕方なく通路にしゃがんで休む時があ
る。ホームや電車の中でしゃがむ姿は、
格好いものではないし、第一若い女性
のひとりとして大変に勇氣と決断力のい
るはずかしい姿である。しかし、実際に
透折終了後はまだ慣れぬせいか息苦しさ
で立ってられない。内部疾患で若い年
令という事で健康人にみられる事は半面
嬉しいが、立っているのが大儀な弱者に
席を譲ってくれる奇特な人に会った事が
ない。社会に甘えた行為かもしれぬが、
ひと目でそれとなくわかる小さく可愛

パッチを考案して希望者にだけ実費わけ
てくれないでしょうか。

②タクシ一の領収書について

透折終了後、非常に疲れてしまい病院
から時々タクシ一を利用して帰途につく
税金の医療費控除欄には通院費も認め
られており、タクシ一の料金を記入して
も領収書がないと最低の電車利用方法し
か認めてくれない。週三回の通院費は年
間にする結構な額になる。

是非、領収書をそえてくれる様、又こ
ころよく記載して下さる様タクシ一会社
にお願ひしていただきたい。

総会会場にて



◇小川佳子

全腎協も東腎協も腎不全という恐ろし
い時期を乗りこえられた方が当初はその
救済活動として出発された色合いが強く
私達、慢性患者の声も一二期待してあ
りました。今回の活動方針にはその点が
考慮されておりますことに賛意を表しま
すとともに、会員の一人一人が全腎協や
東腎協、そしてこぶし会とを一つの大き
な組織体の全体と部分としての参加だけ
でなく、一人ひとりの声として折あるこ
との発言は会の活動を大きく前進させる
万分の一助になるのではないのでしょうか。
私の願ひことは、みよりのない人や、
どんな立場の人でも病気の時は、安心して
治療を受けられ社会復帰の出来るような
社会になること、行政がその支えとして
の適切な施策を取り上げ実践しやすいよ
うに私達の声を声として出して行こう！
と云うことなのです。

◇竹沢正子(ニレ友の会)

議案書に記されている案は一つ一つ当
然のことと思います。ただ私の記憶では

昨年と同様なことが記されていたように思います。一度に多くのことを希望してもなかなか希望通りに行かないようです。もっと重点的の的をしぼって強く押し出してはいかがでしょうか。

私は、慢性腎炎及びネフローゼの医療費公費負担と生活保障及び腎炎の治療法の研究を早期確立していただきたく強く要望致します。

◇ 今村隆夫 (東京共済病院)

生きるということ

健康な時は、生きるということをはばど意識するということとはなかったのですが、腎不全になってからは、その価値、重要性をいやでも意識するようになりました。透析症候群による肉体の苦痛、ヘマトクリツトの低下による全身の湧きぬい感、動くということの大儀さ、休みの日など一日中でも平気で横になっておかれるような植物的生活がしばらくの間続きました。これではいけないというので体に鞭打って出来るだけ動くように努めました。そして真にその動くという行動の中

に生きるということの意味を見出し、たような気がしております。

そして本当に生きていて良かったなあと感じる毎日があるように努力しようとして決意しております。

時候も春、あのやわらかなりすみどりの木の葉を見られることに、無じや気に生きていることのよろこびを感じております。

入院中、多くの死亡した仲間のために、これからの大切にして生きて行きたい。

◇ 趙鎌寿 (個人会員)

私共、苦しい斗病生活に疲れ果て、舌慮している会員が一堂に会して語り合う総会に出席できない事を申し訳なく思います。私には、慢性腎炎に合併症として慢性胃炎、糖尿病、後頭部神経炎、冠不全(心筋障害による)と病気が重っているために少しの無理でも心臓の発作で苦しみますので出席できない事を御諒承下さい。

総会での決定事項はすべてその通りに従います事を申し上げておきます。

閉会の辞

小川忠光(虎の門病院)

東腎協の役員活動に対して厚く感謝いたします。役員は、仕事を犠牲にして活動を続けておろしまして大変御苦労をなさっております。

医学の進歩は、めざましいものがあります。この進歩の中にあつて長生きしようではありませんか。

これからの運動についてですが、これからは、運動についての考え方を変えたらどうかと思います。たとえば、福祉手当についてですが、所得制限があればそれをなくしたらいいいのではないかと、また通院費の経費について調査を行なっておりますが、なんとか負担させる方向でやってもらいたいと思ひます。運輸省や大蔵省と話し合つてみました。大蔵省は物をくれてやるよと云うようなことが感じられる。私達は、もううことではないのでそう云う考えはするべきだと思ひます。これからはきめこまかな運動を進めていってほしいと思ひます。

大変長時間ありがとうございました。

新役員

プロフィール

○石坂一男(会長) 故寺田会長のあと

を、継いで二期目。会長のポストもなかなか堂に入ったものです。事業、透析、会長と三ポストをこなすのは、かなりきついはずですが、ジョークをまじえながらの引率は抜群。その秘密は、彼自身のバイタリティーと家族の暖かい目が見守っているからなのでしょう。

○一の清明(副会長) 新しい任務を制

当てられるのは、嫌なものです。まして職業、透析、役員を兼務するととなると体調にひびいてしまうので、ためらいがちになるのですが、彼は進んで嫌な仕事をひきうけています。そのため必然的に集中してしまおうのですが、持前の責任感でやりとげてしまいます。そうした陰には奥さんの功ありと専らの評判。

○平沢三吾(副会長) あまたの役員諸

氏の中でも、個性ナンバーワンは平沢さん。いろいろな職業をかえてこられたとの

ことで、深遠なる苦勞人の風貌といった感じ。昨年、個人の会(こぶし会)を組織されて来た手腕を買われて、今年三役入り。

○泉山知威(事務局長) 都庁関係の記

事を一手に引き受けての東奔西走したといっても過言ではない程。それだけに週二回の透析は身体にこたえる様子。「あまり独善的になってもね」と言いながらも文字通り身体にむちうっての大活躍。今年副会長から事務局長に就任しました。だが、事実上、ほとんど個人の力にたよっている今日の事務局体制は、堀江氏、一ノ清氏、例をみてもうなずけるほどに多忙の毎日。大変だと思えます。

○井田弘之(会計) 活動の要は、なん

といっても会計です。地味でめだたぬポストですがなくてはならない存在であることは言うに及びません。東腎協も三年目を迎え、活動範囲も拡がりをみせています。彼の活躍を期待したいところで、頭張って!!

予算要求都民行動委員会報告

五月三十日(金) (十四時~十五時半)

都議会第一委員会室において、六団体

(十名)の参加により、「予算要求都民行動委員会」が開かれ、「五十年歴六月補正予算案要求」に対する社会党の考え方の説明がありました。

説明の概略は、当初予定された補正予

算額の、一、〇二九億円は事務所、事業

所税が認められた代わりに、法人事業税

率が引下げられたために、二〇〇億円の

減収となり、八〇〇億円しか見込めず、

それに起債分八〇〇億円と、補助金分八

〇〇億円の合計約二、四〇〇億円が補正

予算案の総額として見込まれている。

社会党としては、自動車税の引上げ分

法人住民税の引上げ分を含めて約三〇〇

〇億円を補正予算額として要求し、とり

くんでいくことが説明されました。

東腎協からは、平沢副会長が参加し、

私達の要求の一つでもある「ネフローゼ

患者の医療費公費負担」についての衛生

局の予算要求を全面的に支持し、削ぎら

れないよう努力してもらおうよう要請しま

した。

腎友会

だより

その4

王子病院腎友会について

国立王子腎友会会長 伊藤礼吉
現在病院で人工透析を受けている人数は四十四名です。週二回の透析で皆元気になって居りますが、過去一年以上に亘って死亡者などは出て居ない現状です。一番古い患者は五年目に入っていますからそれだけ安定した社会復帰を続けられることは有難いことだと常日頃考えております。

最近、王子病院でも透析患者の新陳代謝が必要になりましたので安定した透析状態にある人で希望者をつのり、週三回（土曜日のみ昼間、その他準夜間（夕方五時から夜十時頃まで））のペースで透析を行い、しかも社会復帰を現在より充実させる道が開かれました。これは通常サテライト方式と呼ばれて居りますが、有事の際や栄養指導などは病院に

戻って面倒を見て貰えるようになって居ります。

腎友会としては、年に二、三回程度の患者の懇談会が予定されていて、これには医療のスタッフの方も出席されますので全員の連絡がとれるようになって居ります。目下のところ腎友会の支部が三つ集ったような形になりますが取敢えずこれで運営して行く予定です。その外に病院の方針として家庭透析もすすめていく予定があるそうです。社会復帰の建前ですから弁当持参で、お茶なども腎友会で調達しております。ただし最近東京都以外の近県から透析に来られる人が多いので、例えば、埼玉県出身の人のために腎協に希望に応じて会費を収められるように調整がなされています。目下月額三百円の会費のうち東腎協と全腎協に合わせて二百円を収めているうち東腎協に収める額を埼玉協にまわすことが出来るように総会で打合せして居ります。此の点につきまして東腎協の方々と相談もしていないのですが御諒承頂き度く、今後とも王子病院腎友会は東腎協の発展と活動に協力させて頂き度く存じます。

(昭和五十年六月十七日記)



153

河童会（カツパ会）

東京女子医大 会長 水野猛夫
私たちの東京女子医大第二病院は、都電の「宮ノ前」を降りてすぐの所にあります。

私たちの透析室は患者数十五名、テクニシャン四名、看護婦、ヘルパー各一名のスタッフで行っています。

今月（二月）より週二回（月・金）の夜間透析を開始しました。先生方やスタッフの協力を得、社会復帰の可能な人を対象にして実施しています。

又、レクリエーションも定期的(春、秋)に先生やスタッフと共に日帰り、又は一泊で距離的に近い場所を選び出かかっています。

当病院は、大学病院と云う性質上、他の腎センターと多少違う点もあると思いますが、患者一同家族的な感じで透析を受けています。多分、少数の為と思えます。透析時間は、クレアチニンの高低で四時間と五時間に分けて行っています。

又、月一回栄養課の先生を招いて食事についての勉強会を開いています。これは患者にとって大変に為になるもので又、栄養課にとってもやりがいがあるのか、病院の食事にしても僕が入院した頃と比べると、大変な進歩が見られます。患者達だけの勉強会も又、月一回位行なって各患者さんの意見を交換し合っています。

いろいろ書いてきましたが、とにかく私達の為に最適な食事と考えて苦心していらっしやる栄養課の方々、常に親身になって体の心配を下さる先生方、より良い透析を受けられる様に常に気を配って下さるスタッフの方々などに見守

られて安心して治療を受けられる事を大変に心強く思っています。

病院案内

三軒茶屋病院

三軒茶屋病院全景



三軒茶屋病院は渋谷からバスで二〇分国道二四六号線の三軒茶屋にある。四十九年四月新築工事、五十年正月増築工事が完成して地下一階地上八階建の病院が出来上った。病院の内容は腎センターと云う性質のもので二階、三階が透析室、四階がオペ室、検査室が入り、五、六、七階が病棟になっていて透析導入期の人達が入院している。八階は医局、応接室

院長室等が納まり、七階には将来リハビリテーション施設の開設の計画もある。透析機械の種類は循研のK一五〇、十八台、JNOV、二〇台、泉工(メラ) B MF 八台、MC一五〇〇 八台、キャニスター 二〇台、ダイアライザーはコルプ形S八〇、S一〇〇、C四〇、MAXキール形 ローズブーラン、ギャンプロ、等が使われており、透析時間帯は午前透析がAM八時〜PM二時午後透析がPM三時〜PM九時までで、特に職場復帰している人の為に日曜も透析業務を行っている。患者は大体自分に合った機械、コイルを使えるようになっており、ほとんどの人が週三回の透析をしている。本院の外にサテライトが上野、北多摩、宇都宮とあり近々に新宿にも出来る予定で、サテライトは透析をするだけで入院が必要になると本院の方へ来るので、腎友会としては、会員の掌握がむずかしく苦勞している。会員は全部で二五〇名程いる。

三軒茶屋病院の良い所は交通に便利。外来透析になったら住所に近いサテライトに行ける。サテライトについてもいつて

も入院が出来る。透析日の変更が多少は出来る。等である。本院では将来、腎移植も出来るような本格的なオペ室があり、現在スタッフの調整をしているようだ。その他目標としては腎不全の研究、新薬の研究等も目指しており、本格的な腎センターになるのも近い。我々、腎友会としても今后増々御発展を願って止まない。腎友会は会長以下二〇名の幹事、二五〇名の会員(分院も含む)で成っており、活発に活動している。主なもの上げると、春、秋の日帰りバス旅行があり、これは主に、透析導入期から安定期に入る人達を目標にしており、ドクターを囲んで質問会、栄養指導等も行っており、今後相談室の開設等も予定している。中でも一番参加者の多かった催しは去年の暮に開かれたパーティーで、シャンペン、ワイン、ジュース、果物、子とおよそ病人とは思えない、いろいろのもの並べて、日舞、ゲーム、福引、ダンスと午後の半日を楽しく過ごした。今までは腎友会活動の目標を導入期の人に置いて来たが、腎友会の歴史も重なってくる。透析のベテランと云われる安定期の人達

の、相談事等にポイントを置く必要が生れて来たように思っている。

三軒茶屋病院腎友会新聞部

東腎協のなかの

闘病に励む仲間

家庭透析をおこなう

堀江紀久雄さんをたずねて



家庭透析といえは愛知方式といわれるくらい愛知県が有名ですが、東京都内で家庭透析をおこなっている人がいます。その人の名は堀江紀久雄さん。(都内にはもうひとりだけいるそうです)

昨年六月、通院先の三軒茶屋病院の看護婦さんと結婚。この秋、出産の予定だそうです。堀江さんは、東腎協設立以来この春の総会まで事務局長として活躍してきた人でもあります。板橋区大和町の自宅に家庭透析をおこなっている最中におじやまして、主として家庭透析のあれこれについて語っていただきました。以下それを要約して紹介します。

―透析に至るまでの経緯は

身体がだるくてしかたなく近所の町医者に行った(昭和四十六年十一月)。検尿と採血の結果、腎臓が悪いとわかったので大きな病院に行けと言われた。東大病院で再検査、腎機能は普通の人の三分の一以下ですぐ透析をしなければならぬとかで、いろいろな病院に問い合わせしてもらい、東大でシャントの手術をし、三軒茶屋病院で透析を受けるようになっ

た。発見から透析までなんと二週間、腎臓病については何も知らなかった。三軒茶屋病院で三年間透析、去年の暮、家庭透析に移った。(奥さんは当の堀江さんを含めてめんどうみていた看護婦さんなので条件は良かった)

一家庭透析の良い点は、
通院時間がないこと。仕事も普通の人なみにできること。自由時間ができるところで、会社の人ともある程度つき合うことができる。

通院していた頃は二食外食だったのが、今は外食は昼食(会社に行く時)だけ、透析日を変更できるのはうれしい。家庭的な安心感が得られるーなど。

一不満足なところは
家族がそれにかかりきりになるのでその負担が大きい。神経の休まる時はないという。

透析を始める前と終わったあとの作業の時間がかかることも問題で、そのため、余り夜遅くまでできないので透析日(週三回)には午後三時に会社から帰ってくる。

現在の機械は大きいので、小型化され

て部屋の片隅でテレビでも見ながら家族と一緒にすごしながら透析ができるようになったらよいと思う。現在の形は隔離されたもので決して満足ではない。

一素人が機械を扱うのは無理?

奥さんが看護婦さんであっても家庭透析に入るときは、「何かあったらどうしよう」という不安が大きかった。特に扱うのが主婦の場合、安全装置があってもこの作業は大変ではないかーというのが堀江さんの個人的見解。

一最後に趣味について一言

以前はボーリングにも熱中していたが今はつりぐらい。毎月一回か二回、会社の人と同じ透析仲間の人と出かける。朝の五時起床、車で出かける。沖づり(船に乗って海の沖に)専門。東京湾、相模湾でアジ、サバ、インモチ、イカなどをつる。(寒くなると冷えるので行かない)

(堀江さんは以前にもましますます元氣になっていくような氣もします)

美人の看護婦さんを射とめ、この秋には出産の予定ですますますハッスルせざるを得ないように感じた。趣味のつりの話

をする時の輝やいた目とお腹の大きくなつた奥さんがとてもほほえましく、ほんとうにしあわせそうなご夫婦と思つた)

お花見ハイク

厚生年金腎友会 糸賀久夫

私達の腎友会は、四月十三日に、森林公園にお花見に行きました。私達の病院では透析患者が十三名であり、大変家族的な雰囲気の中に透析が行なわれております。腎友会はあっても人数が少ないので特別に話し合いを持たないでも透析の際中に話し合っているような状態です。

それでも、病院の御協力によって、月に一度は、医師、看護婦、テクニシャン栄養士のみなさんと患者による、透析こん談会がもたれ、食事管理や、日常生活の管理についてきめ細かに話し合いがなされ普段の心配事なども出されて大変役に立っております。

さて、お花見ハイクですが、当日は、曇り空で天気が心配でしたが、何とか降らずにすみました。参加したのは男性ばかりで少しガツカリしましたが、それで

「楽しい食事のひと時」



も、サイクリングを楽しんだり、ゲームをしたりで桜の下での楽しいひと時はあつという間に過ぎてしまいました。

みんなが透析食を持参して、食事療法の話をしながら食べていたが、みんなが話しをしながら食べていると食事の勉強にもなつて結構楽しいものです。

また、僕は、透析してから初めて自転車に乗りましたが、体をあまり動かしていないので体が痛くなつてしまいました。それでも、春の風をあびて走るサイクリングは最高でした。

次回は、秋頃、どこかに一泊の旅行をしようと話しながら帰つて来ました。

再起を願つて

チャリテイーショー

小倉さんに仲間の応援

三軒茶屋病院で透析治療を受けているもこメディアアン小倉清さん(三十才)の再起を願つて、この程チャリテイーショイが聞かれることになりました。

小倉さんは、発病する昭和四十八年まで、南五郎の芸名で『ザ・クレージー』というお笑いコンビをつくつて活躍していました。日劇や国際劇場、松竹演芸場、東宝名人会などにも数多く出演、ラジオ、テレビにも出演しており、知っている会員の方もあるかもしれません。また、東京の舞台だけでなく、全国各地の舞台にも数多く出演した経験もついています。

小倉さんは、もこメディアアンとして活躍をはじめてから約十年、これから芸に油も乗つて、本格的な舞台をお客さんに楽しんでももらいたいとはりきつていた矢先に発病したものでした。

実は、この発病より四年程前に小倉さんは、たまたま受けた健康診断で尿蛋白

が発見され、腎臓病であることはすでに知つていました。しかし、なんの生活保障もなく、厳しい修業を要求される芸人生活では、病気だからと休んである訳にはいきませんでした。腎臓病であることを知りつつ四年間、小倉さんは、全国の舞台から、多くのお客さんに楽しい笑いをふりまてきました。

小倉さんが倒れたのは昭和四十八年、芸人にとっては、いわばかせぎどきの暮のことでした。親の死目にもあえないといわれる芸人稼業の宿命とはいえ、小倉さんには大変ショックでした。

それから一ヶ月後の昭和四十九年正月、小倉さんは三軒茶屋病院で、人工腎臓による治療をはじめました。シャントをつくるときの強烈な痛さも、透析になれるまでの苦しさもなんとか耐え抜きました。そして、週三回の透析生活にもすっかりなれてきた最近では、再びもこメディアアンとして、舞台に立つことを夢みるようになりました。

そんな話を、以前の芸人仲間にして、いたところ、小倉さんの再起の夢をぜひかなえてあげたい、病気なんかには負けない

近況報告

刀 彌 信一郎

昭和四十九年七月二十二日は、忘れ得ない一日になった。病院の暑い廊下で待ちあぐねる妻の前に立つた時は、全身の血がサーツと引ける様な思いで、出る言葉もない。たつた今、先生から透析を受けなければならぬ状態だという診断を下されたのです。入院までの一週間、なんとか透析をしないで済む方法はないのかと、各方面に当たってみたのですが、透析を受けざるを得ないという結論でした。八月一日、外シャントを作り、二日後に透析が始まりました。紆余曲折がありました。八月一日、外シャントを作り、二日後に透析が始まりました。紆余曲折がありました。

でカンバックしてほしいと、多くの仲間や先輩が計画してくれたのがチャリティーショーという企画でした。

このチャリティーショーは、日本喜劇人協会、日本演芸協会が主催するもので、三軒茶屋腎友会も後援者として名を付けています。このチャリティーショーの収益金は、小倉さんの再起のために全額寄附されることになっていました。

公演は、七月三十一日の午前十一時と午後三時の二回で、会場は、小倉さんにとってなつかしい舞台のひとつである浅草の演芸ホールです。この日は、小野栄一、佐々木つとむ、ボン斉藤、ギャグ、メッセンジャー、森野ひろし、ジュン高田などテレビでもおなじみの芸能人多数が友情出演します。もちろん、小倉さん自身も、ひさびさの舞台をつとめることになっており、いまその準備にはりきっている毎日です。

三軒茶屋腎友会では、このショーを成功させたいと、会員に宣伝しています。

前売券は五百円。三軒茶屋腎友会（世田谷区三軒茶屋

電話 [] ても抜いています。

昭和四十九年七月二十二日は、忘れ得ない一日になった。病院の暑い廊下で待ちあぐねる妻の前に立つた時は、全身の血がサーツと引ける様な思いで、出る言葉もない。たつた今、先生から透析を受けなければならぬ状態だという診断を下されたのです。入院までの一週間、なんとか透析をしないで済む方法はないのかと、各方面に当たってみたのですが、透析を受けざるを得ないという結論でした。八月一日、外シャントを作り、二日後に透析が始まりました。紆余曲折がありました。八月一日、外シャントを作り、二日後に透析が始まりました。紆余曲折がありました。

ました。週三回の透析も近頃では、休息に行く積りで通院して居りますので、大分気楽になりました。

酒、煙草を飲まず勝負事もせず、趣味といえは「野球」「ゴルフ」を好む程度なのですが、何でもこんな業病に取りつかれたのかと神を怨んだこともありましたが、今は家族の献身的な看護と友人達のなぐさめと励ましに感謝しながら、来る秋には念願のゴルフクラブを手にする日の来ることを楽しみに透析に動しんで居る今日この頃です。医学の急速な進歩に支えられて、命永らえてきた今日、より以上のチャンスがあるものと信じ毎日を大切に過ごす様に心掛けて居ります。ここ一年間過去を懐しみ、後向きの姿勢で暮し方をして参りました。

今後は透析室の方々の暖い御支援に支えられて、前向きの姿勢で一步一步を確実に踏みしめながら生活してまいります。



近況報告

東京女子医大第二

河童会 中村 美枝子

透析を受けている皆様お元気ですか？治療、仕事、食事管理などで私達は精神的にも大変な毎日です。

私も腎不全になりました丁度一年たちました。最近ようやく透析の波に乗って来た感じですが。最初のころは、あまりにも生活が一転してしまい毎日ふてくされムードで通院しておりました。でも病院には、良い先生、良いスタッフの皆さんそれからなにより良い先輩がいていつも病気に對する指導をして下さいました。おかげで私は、一透析患者として軌道に乗ることが出来たのです。

腎不全になってしまった事は、若い私にとっても悲劇ですが今までの社会の人達とちがった方々にお目にかかれてとても光栄です。

病院には、河童会と云う患者の会が最近出来まして旅行などレクリエーションを進めておられます。

他の病院の方々とは是非一度交流したい

と思います。

「光化学」扁桃に異常」

新聞を読んでびつくり……

加藤 茂

東京都公害研究所は、このほど動物実験(ウサギ)によつて、光化学スモッグの主成分であるオゾン(O₃)を多量に吸い続けると、扁桃(へんとう)に異常が起こることを発表しました。一般に扁桃疾患があると腎炎、リウマチなどの慢性病を併発しやすいといわれていますが、今回の研究をさらに押し進め、因果関係が実証されたならば、腎炎≠公害病ということにもなつてきます。

以前から、公害と腎臓病との因果関係もかなりあるのでは……と聞いていました。やはりこういう研究結果がでると言うことはショックです。また、なぜ今までにわからなかったのかという疑問さえ感じます。研究の方が公害にはとても追いついていけないほど私たちはむしばまれているのが今の世の中ではないでしょうか。

腎臓病は増えている。しかし、腎臓病がどういふ病気か知っている人はどれほどいるでしょうか。

まだ動物実験のみで、人間に對する影響はわからないようですが、国や地方自治体は一日も早く対策を練ってほしいと思います。

「チヨンガ―のつばやき」

つばやき

幸クリニック 吉田太郎
どこの人工腎臓センターにおいても、透析成績に問題があるのは、既婚者よりも若い独身の人々だそうである。

実は、この私も今お世話になつている腎臓センターのワースト・スリーの筆頭にランク付けされている次第で面目ない限り。私は、怠け者の不精という性癖を強く持っていて、自分の食事さえ、作るのに悲鳴をあげている次第です。ある日、会社の独身寮に住んでいる友人がもの珍らしそうに、私がおさんどんをしている姿を見て感心して言いました。「お前は、かあ、女房の類は要らないな!!」

そう云えば奴は、生まれてこの方、飯を炊いたことが無いといっていたつけない!!。

要するに彼は働いていさえすればよいのである。「人生経験からして何と貧弱なことか」とは思ったものの不精な私には、矢張りうらやましい限り。そこで頭

に浮んだのが次の話です。所詮、男は料理をすることよりも、食べることを得意とする。そこで透析を受ける同じようなチヨンガーが寮に住み、生活をしてゆく。即ち、姉婦さんを頼み、朝食、弁当、夜食を料理していただき、透析も寮で行なうという案である。昼は、各自の職場へ弁当を持って仕事へ出かけ、帰寮後は、夕方、テレビを見ながら透析を受ける。

ああー これぞチヨンガー男子をおさんどんから解放する道印かいなと想像を上げます。しかしそこにも厳しさがあるかも知れない。例えば次のような戒がついたらどうしよう。

●モーゼの三戒(特に不精癖のある男のため)

一、汝、寮の食事をまずいと決して言わないか?

二、汝、自分の洗たくぐらいは、ちゃん

とするか?

三、汝、自分の不精癖を美德と思えないことはないか?

ああー! 現実には厳しいなあ!

「悪魔」

鬼神者

だんだん時間的感覚がマヒしてきた。

総ての事象が、恐らくは自分を基軸として回転を繰り返しているはずであった。

但、自分には脳裡の中に一点の光を模索する許りで、一切の外界をしゃ断する事によってしばしの安息を与えていた。

タドコロ君! 遠くで我を呼ぶ声がある。否、声というより直接脳髓に話しかけられている様な気がする。「誰だね。」僕は寝床の中から半身を起して、闇の中をうかがう、眼を凝らしてみると何か黒い影を感じて「もう一度云う。誰だね、そこにいるのは」と問うと、やはり黙したままである。

「卑怯な!」云うなり枕を投げつけてやると、地の底から湧いてくる様な笑い声を発して、さっと飛び退いた。「姿を

見せろ」別にこの日の為に練習していた

訳ではないが、片ひざをふとんの上になてた投げの姿勢に入ると、急に腫したと見えて、丁度スポーツライトをあてた様にその部分だけ明るくなった。その中に浮かび上った姿を見て、啞然とした。

金色に輝く仏像がそこにあつたからである。何故こんなものがこんなところに……。

その疑問を発するいとまもなく、その後で例の気配を感じた。

「悪魔だ」直感の間違っていないはずだ。精神が疲労し、眠れぬ夜が続くと決まって現われる。あいつだ。

奴との最初の出会いには、もう久しい。いきなり、首をしめてきた。奴が来ると金縛りにあつた様に身体の自由がきかなくなる。寝床に縫いつけられたと想像してくれ給え。頭をもたげようとする、ひどく重圧感を覚えて、枕の中に押し込められた事を記憶している。

その度に敗北を味わされたが、今度こそ叩きのめしてやろうと思つていたら先だった。しかし今度の事があって、最近姿を見せなくなつた。

木々は冬の風雪に曝されて、枝は皆、地を向けて立っている。積雪と強風が、思い切って空に向って枝を伸ばすことを許さないのだろう。その風雪に耐えかねて、裸形を露出している朽木が、緑の中に、時々はいたいたく、時には、自然の生んだ造形のように、たくましく立っている。

速くの沼にも近くの沼にも、盛夏をよそに降りつもった残雪が二メートル余もあって、冬のすさまじさを語り、涼を送る。

残雪にすべり、雪台戦を楽しんでいる。二つの黒い影がゆらめいている。

折からの雨で茶屋に入り、名物のキリタンポに舌つづみを打って雨の無聊を慰める。

十和田湖。箱根の芦の湖や日光の中禅寺湖を見なれた眼にも、「十和田湖は大きい」の印象だ。休屋から子の口まで遊覧船。エンジンの響きが湖面に波形を残し、扇状に広がっては消えて行く様を見ていると「旅をしているんだなあ」という実感が湧いて来る。

松島のように点在する小島。客待ち顔

にボツンと小屋に居るポト屋さん。水辺の砂浜で遊ぶ子供達を眼で納めて望み、写真を撮るジール、パン姿の若夫婦、無心な子供と幸福な一時期だろうか。

何処から流れついたのか、大きな木の根が砂上に露出して、自然の造形がオブジェとなって、竜安寺の石庭のような風情をつくっている。湖面をバツクにすると一幅の絵のようだ。

奥入瀬の流れは、子の口の水門によって、常時水量が適当に調節されているそうだ。岩をかんで流れる溪流は、岩にむしたる苔を洗うことなく、岩肌を生えた名も知れぬ草花を流すことなく、育くんでいるとか。

茫漭と流れる銚子大滝、高く白糸の様に落ちる滝。上高地の大正池をばせる枯木と静の姿にも出合う。

溪流を渡る木の橋の真中に丸い穴を明け、一本の木が立っている。この木を切り倒さないことが、自然保護なのか。何か、無意味なコックイさを見た。

子の口から自然（歩道）で石ケ戸へ。畳十帖ほどもあるかと思われる一枚岩が、大木に支えられて岩屋をつくってい

る。大木と一枚岩が持ちつ持たれつ、倒れることなく、傾くことなく。

紙を溪流に漏らして投げつけ、この一枚岩と大木の幹に張り付くか縁起がいいという。白い花が咲いたようだ。「ついた」の「落ちた」との観光客の歓声が溪流と森々にこだまする。遊びの中に、何か一抹の俾せを願う心がうかがえる。

「奥入瀬」自然の響きがあって、この名は好きだ。

子の口から青森までは、国鉄の定期バス。一番眺めのよい運転手の横に席をとる。

「八甲田山死の彷徨」新田次郎著の本で読んだ真冬の八甲田の姿はそこにはないが、箱根や伊豆を旅して感じるような、山脈の大パノラマが展開し、雄大な自然が旅情を一層かきたる。

広大にひろがった山麓に青森の市街が、銀色の海が見えてきた。この短かい旅も終了だ。西田に向かって走るバスの車窓から、まぶしく市街が走り去っていく。

青森駅の出札口へ「遠距離切符発売状況」は、どの列車も満席の赤マークが印されている。一人旅の気軽さで「何とか

「旅」と「一枚の切符」

織本病院 原 一

荷物の引込縁が夕日にキラキラ光り、岸壁をヒタヒタと波が洗い、速くに大きな連絡船が小さなシルエットをつくつていた。

青森港。「北海道へ渡ろうか」と思う。

七月二十日上野を発ち、盛岡から田沢湖、八幡平、十和田湖、奥入瀬溪谷と気ままな一人旅を楽しんだ。

下手な横好きのカメラ道具一式を背負って。カメラ三台、レンズは長短四本、三脚を入れて二十キログラムにはなるだろうか。

キヤラバンシューズ、着古しの夏ズボン、半袖のサフアリーコートといういでたちで。

盛岡の早朝は、ひんやりと気持がいい。改札口の近くに、南部独特の「大鉄瓶」と「チャグチャグ馬ツ子」が大きなウインドに誇らかに展示されている。この地方を代表する産物なのだ。大鉄瓶は「重量二八五キログラム、容量二百六リッ

トル」と説明されている。

盛岡から、田沢湖線の始発で田沢湖へ。朝まだき、ローカル線は、二、三の観光客と地元の人がポツンと見られるくらいで閑散だ。

野を渡り山を越えてゴトゴト走る。こんな山合にも、開発、という名の工事があのか、所々に山をくずし、道路をつくり、整地する姿がうかがえる。

「この辺も前と変わったね……」ハイキング姿の初老の夫婦が話している。再度の田沢湖線への来訪なのか。

日本一の深度を持つ田沢湖は、駒ヶ岳など四囲の山客の濃緑を湖面に映して、静寂を保っている。訪れる観光客も末だ少なく、手持無沙汰に、観光船やボートの手入れをする人影がポツンと見える。仕掛花火のために組まれた杉丸木が湖面に浮んでいる。

水辺をサクサクと砂をかんで歩み、しばらく耳を澄ましていると、サザ波がビシヤビシヤと岸辺を洗い、単調なリズムを奏でている。騒音をあげて通る自動車が時々、そのリズムをかき消すくらいで、山の湖は静かに息付いている。

花火の揚るころには、この湖畔も観光客でこたえ返して、その様相も一変してることだろう。

田沢湖から定期バスで八幡平へ。途中、玉川温泉で下車。豊富な湯量を誇るこの温泉は、山合を流れる谷川のように、トウトウと湯煙をあげて流れている。その温泉を引くために幾筋もの木のが走って壮観だ。

古びた木造の昔ながらの旅館が数軒。土産物屋の店先には、日本中何処に行っても見られる、或る飲料会社の広告を浮き出した、古びたベンチが置いてある。

長い逗留の湯治客なのか、古老が三人そのベンチに腰掛けている。朝刊を開きながら、浴衣掛に尻端折、ムコウ鉢巻、ステテコ姿に下駄履きで、朝湯のあと交遊を楽しんでいる。ひなびた、長閑な温泉地だ。古老たちの前を、湯煙が音もなく白く漂って、ガスの香を残して通り過ぎてゆく。

晴れていれば、四方の見晴しもよく、一面の緑と遠くの山脈を望みできるところだが、八幡平は合槽の濃霧に被われている。

なるだろう」とたかをくくっていたが、「キャンセル待ちしかありませんね……」との応答。

「切符が取れなければ北海道へ渡ろうか」と心が動く。まだ見ぬ北海道の広大な原野や湖、風物が断片的な見聞の中から浮んで来る。

青森港を散歩して、再度、出札口に問い合わせると、一枚だけキャンセルが出たという。こんな時、一人旅は都合だ、二人、三人では行動の自由が制限される。

「北海道へ渡ろう」と、切符が出ない時の腹を決めていたのだが、一枚の切符はあった。B寝台上段、列車の廊下で、ポケットウイスキーと駅弁で夕食をとる。強行軍の疲れか、早々寝入る。ウイスキーの酔も手伝って、寝入ってしまった。幾百キロの道程も夢の中だ。夜半トイレに起きて、密閉された車内は空気が稀薄になっていのか、チヨット息苦しさを覚える。

早朝、列車は定期に上野に到着。「また、東京の喧騒の生活がはじまるんだな」と思う。この旅が「健康な」最後の旅になっってしまうとは。

帰京の晩に「急性心不全」の発作が起り、経験したことのない苦しさを味わった。救急車で病院へ、診断は「慢性腎不全」のおまけがついた。酸素吸入で苦しみを忘れたように寝入ってしまう。

「直ちに外シャントで透析」という重症ではなかったが、一ヶ月後には透析開始。これといった自覚症状もなかったが、五月ごろから視力が落ちて、勲危年で老眼鏡を購う。頭痛が時々走った。それが予兆であったのだ。弘しきれない、滯感との戦の毎日。「なんでこんな病にとりつかれたのか」我身の不運を嘆く、「何とかなるさ」そう思っても救われぬ。「病を得て人生を知る」そう思っても納得できない。脱力感、持久力の欠如、体力の低下、悪い条件だけが浮んでくる。気力が阻喪する。

「あの青森駅で一枚のキャンセルの切符がなかつたら？」北海道に渡って、旅の途中で倒れて、骸を原野にか、湖畔にか曝していたかも知れない。

たった一枚の切符が、自分の命を救ったのだ。一枚の切符が命を左右した。一枚の切符に託された生命が、今、傷つき

ながらもこうやって息付いていることを思うと「運命」のようなものを感じる。人間は、その誕生から「自分の意思」ではなく、大きな自然の摂理の中で生をうけ、育くまれて来るのだから。

親はその子を選んだのではなく、子もその親を望んだのではない。しかし、その親子は限りない情愛の絆で結ばれてゆく。「宿命」とか「縁」という名を冠した「運命」であるように。

人は、その境涯も、環境も、生い立ちも、それぞれ異なった道を歩いてゆくが、自分自身でも終着駅のおからぬ、「一枚の切符」を持って。真直ぐだったり、曲がったり、キシンだりした軌跡を残して過ぎてゆく。

「一枚の切符」、それは、二枚とないたった一枚の、自分の切符なのだ。



雑想

- 一、義理堅し水のささいを断はれず
- 一、ちびちびちびと酒なら良かる計り水
- 一、孫が飲む水に我が喉つばを飲む
- 一、水飲めぬ病此の身を捨て切れず
- 一、死の文字が心の隅であぐらかき
- 一、一日の生の宝に綿を巻く
- 一、職さがし老と隔療通せんば

友の死をみつめて

- 一、透折の仲間ともしび一つ消え
 - 一、水が敵末期の水も飲めぬ友
 - 一、目の前で消えて行く魂とどめ度き
 - 一、幾年か先の我が身の定め見る
 - 一、朝顔の露よりもろき二児の母
 - 一、夫や子に心残して春そむき
- 腎移植成功
- 一、母の愛乙女の腎に灯をともし
 - 一、腎呉れる孫の一言胸つまる

全腎協

第五回総会報告



五月十八日(日)、岐阜市岐阜産業会館で全腎協、第五回総会が開催されました。総会には、約三〇〇人の会員、家族の参加があり、大変盛んな総会となりました。

当日は、交流会から始まり、昼食後、映画「家庭透折」を上映し、その後、総会に入りました。

大会は、五〇年度の重点目標として、①、医療の地域格差是正、②、ネフローゼ、慢性腎炎患者の公費負担、③、人工腎臓患者の通院費の自己負担解消、④、身体障害者雇用促進法の改善、⑤、障害年金の改善等の運動を進めるなどを決定しました。

これらの重点目標は、どれをとっても私達、腎臓病患者にとっては、重要な問題ばかりです。私達が人間らしく生きていけるような根本的な対策の実現をせまうて、全国のみなさんと共に今後さらに

運動を強めていかなければなりません。また、新役員には上田会長(埼玉)小林事務局長(東京)ほか三十八名を選出しました。東腎協より石坂、泉山両氏が全腎協幹事になりました。

当日の東腎協からの参加者は、石坂会長、平沢副会長、加藤事務局長、糸賀幹事、高橋幹事、月田幹事、宝生幹事、および草間氏(ニール友の会)の八名が参加しました。

尚、総会についての詳細については、全腎協、機関紙を御参照下さい。

全腎協総会に出席して

ニール友の会 宝生和男

第五回全腎協総会に出席のため岐阜市を訪れました。島の中に建つ岐阜産業会館には、朝早くから全国の会員が集って来ました。私達の運動も定着して来たのでしょうか。

お子さん連や婦人同伴の方が多く見うけられました。そしてそこに腎臓病の故郷がある様に、「ヤレヤレ、やっと着いたよ……」と笑っていました。

きつ今日のために体調を整え私の話を聞いてほしい、この点を訴えたいと思つて山坂を越えて来たのかも知れません。迎える岐阜協の役員さんも腰をかがめて遠い処御苦勞様ですと挨拶される。

「お元気ですか」

「イヤードウも」

と百年の知己のように話がはずみその輪がひろがって行きました。

昨年の神戸大会には病后始めての大旅行でおっかなびっくりでしたのに、今度はいとも気軽にバツグーンでやつて来た私もその輪の中に入って皆さんの話を聞くことができました。

こう云う組織が出来たればこそその運動に参加できて本当によかったと思つた。大会の内容や成果については機関紙にゆずるとして実は当地は二鹿目です。

御承知の通り国盗り物語で有名な斉藤道三、織田信長、明智光秀等若い武将が全国統一のため戦国時代幕明けの策源地でした。その地にあこがれて私は、若い頃此の辺を歩き廻つたものです。

長良川畔に立つて稲葉山城を見上げた時私も「現代の戦国時代」を戦い抜いて

来たような気がしました。

いろいろの想い出や期待に胸のはずむ大会でした。

「ネフローゼの医療費」

助成実現せず

都六月補正予算案発表

東京都は六月十日、六月補正予算案の内容を発表した。

私達東腎協が重点目標としていた、ネフローゼ症候群に対する医療費助成は、残念ながら今回の予算では実現しなかつた。

今迄に請願、要請と繰り返し行ない、衛生局当局も重点項目として予算要求していながら、この財政状況より見送られたものである。

知事の公約の一つである、「福祉都政の一層の前進」という言葉も、私達には何かうろくに響くのを禁じえなかつた。

また、本年は九月補正は行なわないといわれており、私たちの願いである「ネ

フローゼ症候群の医療費助成」も、五年一度の予算を待たなければならなくなつてしまつた。

これから五十一年度に向けて、皆さんと共に運動を強めていきましょう。

実態調査より見た

ネフローゼ症候群の特徴

東京都の行なつた難病実態調査のうち、ネフローゼ症候群に関する特徴は次のとおりであつた。

- ①一次調査で解答のあつた者二千五十八名、二次調査 千二百四十一名、うち解析対象者 八百九十七名であつた。
- ②男性六十二・八名、女性三十七・二名であつた。
- ③職業は無職が六十二・七名であつた。
- ④平均年齢は二十三・八才と若年層に多かつた。
- ⑤発病年次は昭和四十一年以降が八十三・九名となつていた。
- ⑥主に入院が九・六名。入院と通院が、

三十三・七％、主に通院が五十二・八％であった。

⑦日常生活では介助不要が八十九・六％と一番多かった。

⑧治療費については被用者保険本人が

二十一・二％、被用者保険家族が四十四・九％、国保二十四％であった。

⑨患者住所は二三区が六百八十五名、市町村が二百八名であった。



東腎協第一回役員会報告

開催日 昭和五十年六月十五日

午後一時～五時

場所 全腎協・東腎協事務所

討議事項

1. 本年度の活動計画について

(1) 親睦会は十月五日(日)を目途とする。

担当者―宝生、石坂、一の清、

泉山、糸賀、月田。

(2) 機関紙担当者―糸賀、泉山、加藤

上野、田中、永井、月田

中村。

(3) 具体的な活動計画案を次回役員会までに作成し決定する。

2. その他

女子医大分院よりシルバースhirt用バッチの作成について問題が提起された。

3. 東京都六月補正予算案について

編集後記

東腎協第三回総会が終って、少しのんびりしすぎてしまいました。そのために機関紙の発行が遅れたことをお詫びします。今年は、第一回役員会の中で新しく担当者に選ばれた方々が増えましたので昨年より少しでも充実したものになるように頑張りたいと思っています。

記事の内容についても出来るだけ会員の声をのせていき、読みやすいものにしたいたいと思っておりますので会員みなさまの身近に起きた出来ごとや、文集、詩、短歌、随筆、近況報告などをどんどん事務局までお寄せ下さい。

尚、編集の関係で一行十八字で書いていただきたいと思えます。
◆これからは、暑い夏に向っていきますので自己管理をキチンとして夏負けしないようにしましょう。

(機関紙担当、糸賀)